

地域おこし 協力隊通信

Vol.
9

✓ ~行政の枠を超えた地域との連携活動~

御坊市地域おこし協力隊の渋谷茉央です。

本号では、着任してから出会った地域の方々とのつながりから広がった取組について、お話しさせていただきます。



協力隊になったからできた

「つながり」

地域おこし協力隊としての活動も、いよいよ残り2か月となりました。この3年間はあっという間でしたが、大変充実した時間を過ごさせていただきました。

大阪から移住してきたうえ、御坊市で初めての地域おこし協力隊としての着任だったこともあり、当初は知り合いが一人もおらず、他地域の協力隊の方々と比較して不安や焦りを抱くこともありました。

しかし、所属する産業振興課が市観光協会の事務局も担っていたことから、「ぬりえコンテスト」や「かるた大会」などのイベント運営を通じて、多くの方々と交流する機会に恵まれました。さらに活動の様子を個人のSNSで発信したり、紀州体験交流ゆめ倶楽部主催のまちづくりワークショップ「つながる学校」、日高郡内の地域おこし協力隊の皆さんとの交流会などに積極的に参加したりする中で、応援してくださる方や気軽に声をかけてくださる方が少しずつ増えていきました。

こうした出会いにより、着任当初に感じていた不安や焦りは次第に和らぎ、「一人ではない」と感じられる場面が増えるとともに、市内外に知り合いの輪を広げることができ、人との「つながり」が少しずつできてきました。

人とのつながりが生んだ

「産物」

そうしたつながりは、仕事以外の場でも、次の出会いへとつながり、本町商店街にある「トリノスギヤラー」を運営する絵本作家・中川貴雄さんにお声がけいただき、子ども向けイベント「トリノス大サーカス」にスタッフとして参加しました。さらにその縁から、御坊日高地域の若者（16歳〜22歳）を対象としたデザインワークショップの講師も務めさせていただきました。

私自身にとっても成長の機会となり、芸術大学での経験や、この3年間の協力隊活動で培ったデザインのスキルが、地域のために活かせるという自信にもつながりました。

また、市観光協会の事業においても、「地域資源と市外の方をつなぎたい」という想いから新たな挑戦として、協力隊通信（広報ごぼう令和7年3月号）で紹介したガストロノミー体験事業「日高川の恵み」から着想を得て、私の実家が営む醸造所「大阪渋谷麦酒（おおさかしぶたにばくしゅ）」と協力し、御坊の特産品「紀州うすい」を使用したオリジナルクラフトビールの開発に取り組んでいます。

どれも私一人の力では決して見ることでできなかった景色であり、皆さんとの温かい関係性があったからこそ生まれた成果だと感じています。

残りの2か月を大切にしながら、精いっぱい頑張っていきたいと思いますので、よろしく願っています。

★「紀州うすい」を使用した
オリジナルクラフトビール★



★デザインワークショップ★

